



令和7年度 空港の整備目標



○ 鹿児島県は、南北600kmに連なる広大な県土に多くの離島を有しており、「**人やモノの交流を支える陸海空の交通ネットワークの形成**」を図るために、県内空港（離島7空港）の安定した利用は欠かせないことから、航空機の安全運航や利用者の利便性を確保するための整備を進めます。

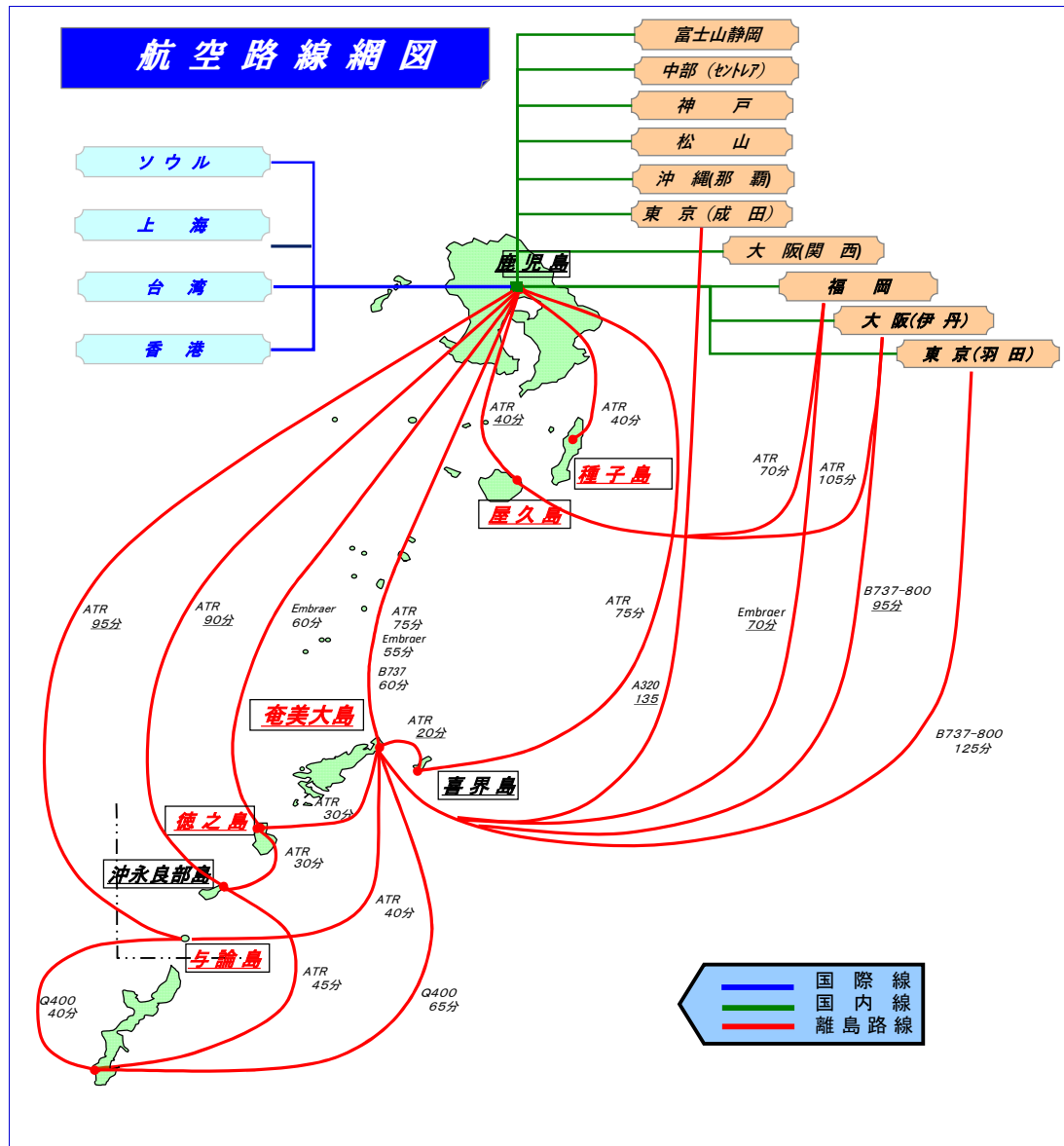
◆ 今年度は、航空機の安全運航確保や既存空港施設の機能保持・向上などの整備を進めます。

基本方針	整備指標	令和6年度末までの実績値	令和7年度末目標値	備考
航空機の安全運航の確保	滑走路端安全区域(RESA)の拡張整備の事業着手数	4空港	5空港	R2から継続 奄美空港, 徳之島空港 R3から継続 種子島空港 R6から継続 与論空港, 屋久島空港(別事業にて実施)
	場周柵更新の整備延長	1,088m	1690m	R4から継続 与論空港 (場周柵更新 全延長 2,500m)
空港施設の機能保持	電源施設の更新完了数	5空港	6空港	R3迄に完了 屋久島空港, 奄美空港, 喜界空港, 徳之島空港, 沖永良部空港 R5から継続 与論空港
	航空灯火のLED化した数	1.4%	4.3%	R5から継続 種子島空港, 奄美空港

◆ 整備指標の解説

整備指標	指標の内容	指標の示す目標
滑走路端安全区域 (RESA) の拡張整備の事業着手数	滑走路端安全区域 (RESA) の拡張整備において、省令で定められている令和8年度までの事業着手数 (全整備数 N=7空港)	滑走路端安全区域 (RESA) を拡張することにより、航空機の安全運航の確保を目指します。
場周柵更新の整備延長	与論空港の場周柵更新において、全体延長に対する完成延長 (全体延長 L=2, 500m)	場周柵の老朽化を解消し、制限区域内への不法侵入防止機能を復元することにより、航空機の安全運航の確保を目指します。
電源施設の更新完了数	奄美空港等の電源施設において、更新予定の計画設備数に対する更新完了数 (全更新数 N= 6空港)	老朽化した電源施設を更新することにより、航空機の安定した運航を目指します。
航空灯火のLED化	県管理空港におけるLED灯火の導入率 (全灯器数 N= 70基)	従来の電球型灯火に比べ消費電力が低いLED灯火を導入し、航空分野の脱炭素化を推進します。

◆ 事業箇所図



鹿児島県内の空港

- 国管理空港 (1 空港) 鹿児島空港

- 県管理空港 (7 空港)

種子島空港
屋久島空港
奄美空港
喜界空港
徳之島空港
沖永良部空港
与論空港



ERJ170型機 座席数76席



A320型機 座席数180席



ATR42-600型機 座席数48席

赤字: 令和7年度実施空港

航空機の安全運航の確保（RESA整備）

種子島・奄美・
徳之島・与論空港

【概 要】

平成31年4月の省令改正に伴い、滑走路端安全区域の拡張が必要となったことから、奄美空港及び徳之島空港については令和2年度より、種子島空港については令和3年度より、与論空港については令和6年度より滑走路端安全区域（RESA）の拡張整備に着手しています。

※滑走路端安全区域（RESA） **R**unway **E**nd **S**afety **A**rea

・航空機がオーバーランやアンダーシュートといった事故を起こした場合に、機体の損傷を軽減し、人命の安全を図るため、着陸帯に設けられた緩衝区域

【整備効果】

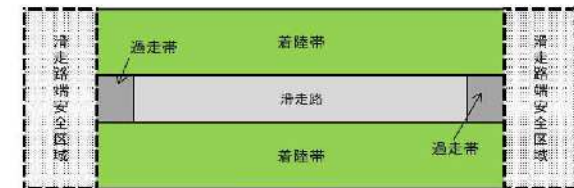
●滑走路端安全区域を拡張することにより、航空機の安全性の確保を目指します。



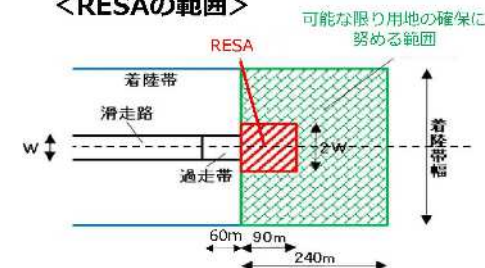
アンダーシュート
滑走路の手前で着陸する事故
障害物に衝突すると大惨事になる可能性がある

オーバーラン
滑走路を走り越す事故
障害物に衝突すると大惨事になる可能性がある

<RESAの位置>



<RESAの範囲>



【令和7年度末の整備目標】

令和7年度は、滑走路端安全区域拡張整備に係る用地造成（種子島・奄美・徳之島）及び用地買収（与論）を行います。（※屋久島空港については、滑走路延長事業として実施。）

空港施設の機能保持（場周柵の更新）

与論空港

【概 要】

昭和51年の供用開始以来、随時補修を行ってきましたが、腐食速度が著しく、老朽化が激しいことから、制限区域内への不法侵入防止のため早期更新が必要となっています。

このようなことから、令和4年度より場周柵の更新を実施しています。



【令和7年度末の整備目標】

令和7年度は、老朽化した場周柵の更新工事を行います。

【整備効果】

●老朽化した場周柵を更新することにより、航空機の安定した運航を目指します。

腐食状況



腐食状況



空港施設の機能保持（航空灯火のLED化）

種子島・奄美空港

【概要】

昨今の航空分野における脱炭素化の流れに関連した電力消費の削減や、メンテナンスの省力化を目的として、空港に設置されている電球式灯火について、LED化を進める必要があります。

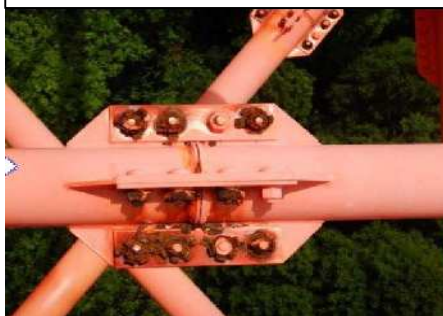
現在、県管理空港の灯火は概ね電球式灯火となっており、始めに、開港から36年が経ち老朽化している奄美空港からLED化に着手し、順次、他の空港についても実施する予定です。

また、種子島空港の灯火の一部を支えている橋梁は完成から27年が経過して腐食が進行しており、LED化の前に、塗装の高質化による改良（長寿命化）を行う必要があります。

以上の背景から、令和5年度より本事業に着手しています。



パイプトラス部腐食状況
（種子島空港）



【令和7年度末の整備目標】

種子島空港について、進入灯橋梁の長寿命化に係る工事及びLED化工事を行います。

奄美空港について、LED化工事を行います。

【整備効果】

●LED化によって、電力消費が削減（＝脱炭素化）できます。また、LEDは長寿命でメンテナンスの頻度が減り、航空機の安定運航につながります。

灯火のLED化



種子島空港の灯火

滑走路灯



滑走路末端灯
（埋込式）

